

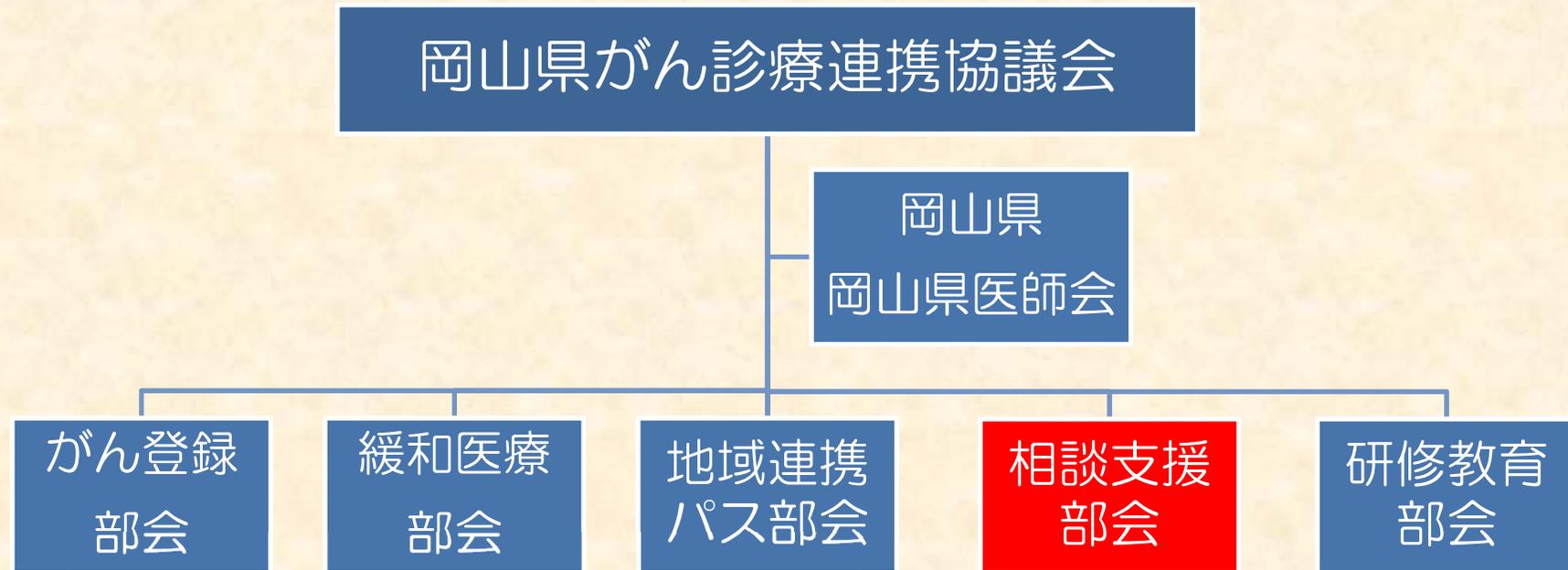
# がん相談支援センターの広報活動について



報告

岡山県がん相談支援センター実務者会議  
竹嶋・山本・石橋

# 岡山県がん診療連携協議会組織図



がん相談  
支援WG

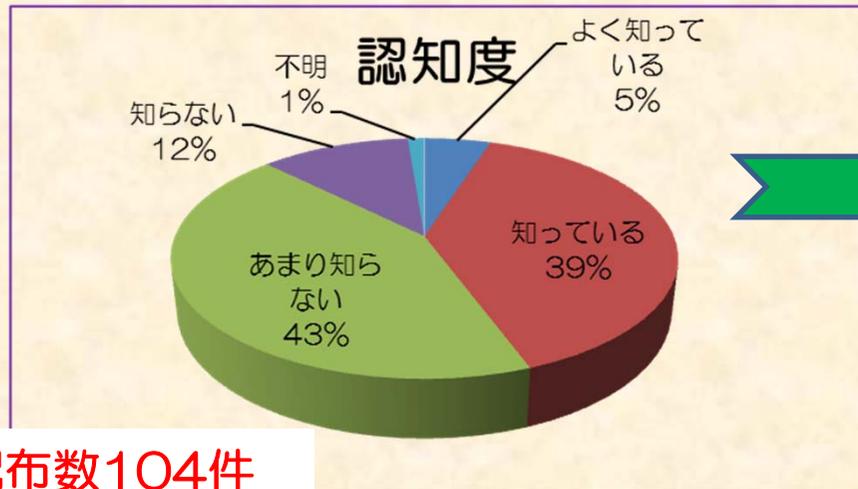
各拠点病院より1~2名参加  
年3~4回の会議  
情報交換、部会への提案、そして実践

# がん相談支援実務者会議ワーキンググループの活動（2009年～）

## 最初の課題 がんの在宅医療の実態を把握しよう！

→訪問看護ステーションの機能についてアンケート調査

がん相談支援センターに関する質問項目も加えた（2010年）



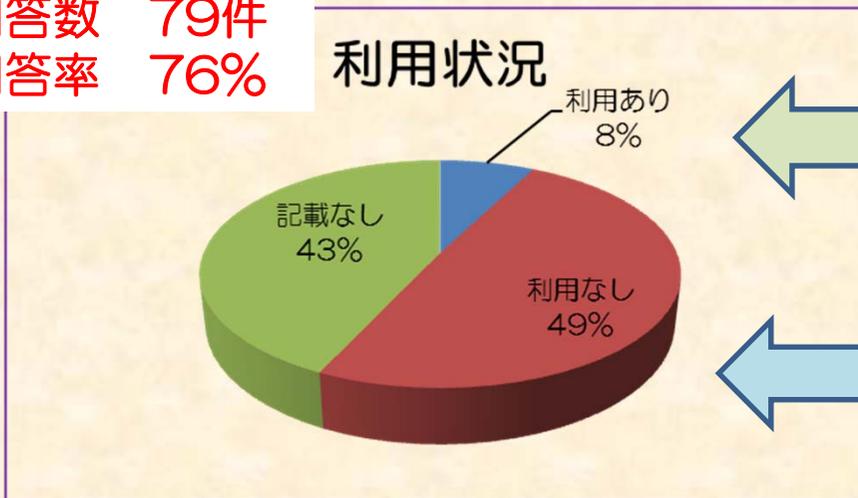
### 広報活動の必要性を痛感

- ・がん相談支援センターについて知ってもらうこと
- ・顔の見える関係づくり、情報交換

配布数104件

回答数 79件

回答率 76%



### 利用して役に立ったか？

- ・相談がしやすく次へ繋がった
- ・参考になる情報をもらえた

### 利用したことがない理由

- ・利用する機会がなかった
- ・何を相談したらよいかかわからなかった
- ・誰が対応するのかかわからなかった

# 広報活動に向けて

## がん相談支援センター

あなたと共に考え、共に向き合います。

知ることがあんしん。

わからないこと、不安な一人で悩まないでご相談ください。

がん相談支援センターは、患者さんやご家族あるいは地域の方々からのがんに関する相談をお受けする窓口です。どうぞ安心してご相談ください。

- 岡山大学病院 TEL.266-232-7744
- 岡山済生会総合病院 がん相談センター TEL.266-232-2111
- 岡山赤十字病院 がん相談センター TEL.266-232-4827
- 岡山医療センター がん相談センター TEL.266-232-4311
- 倉敷中央病院 がん相談センター TEL.266-232-3833
- 川崎医科大学附属病院 がん相談センター TEL.266-232-1111

## ポスター・リーフレットの作成

### がん相談支援センター

あなたとともに「あんしん」をつくりましょう。そして、最良の医療とケアを。

がんが正しくわかる  
そして新しい自分がいいる。

家族がわかる  
そしていつもの家族がいる。

友達もわかる  
そしていつもの友情がある。

地域の人もわかる  
そしていつものあいさつがある。

みんなわかると「あんしん」が生まれます。

がん相談支援センターはあなたとともに考え、ともに歩みます。

全県のがんに関する情報は、下記のホームページから検索できます。

- ◎ 全県がん相談センターがん相談情報センター <http://gancs.jp/>
- ◎ がん情報サイト <http://oncology.jp/>
- ◎ 岡山がん相談センター <http://www.oukagancs.jp/>
- ◎ Web版がんともく相談Q&A <http://www.oukagancs.jp/>

岡山県がん診療連携協議会  
事務局 岡山大学附属病院  
TEL.066(215)7972  
<http://www.oukagancs.jp/>

？と思ったら一人で悩まないでご相談ください！

### よくある相談

- 家に連れて帰ってやりたいが**退院するのは不安**
- **仕事**が続けられるだろうか
- 他の**治療法**（免疫療法等）も知りたい
- 治療は受けたいが**費用**が心配
- 自分の地域で**往診**してくれる病院や**サービス**が受けられるか教えて欲しい
- **今の気持ち**を聞いて欲しい 等

### がん診療拠点病院とは・・・

全国どこでも質の高いがんの専門的な医療を受けることができるよう、がん医療の均てん化を生労働大臣が指定した施設です。

**岡山県**  
県がん診療連携拠点病院：岡

**地域がん診療連携拠点病院：**  
岡山済生会総合病院  
岡山赤十字病院  
岡山医療センター  
川崎医科大学附属病院  
津山中央病院

## パワーポイントの作成



# 出前広報活動

2011年度

- ・訪問看護ステーション 3地区 74人
- ・介護保険関連事業者 1地区 70人

参加者  
14か所  
434人

2012年度

- ・訪問看護ステーション 1地区 25人
- ・介護支援専門員協会 8地区 205人
- ・真庭の終末期医療を支える会 60人

2013年度

- ・介護支援専門員協会
- ・民生委員、愛育委員等…さらに輪を広げて

# 倉敷健康福祉まつり

いきいきフェスティバルに参加（2012年10月21日）



お揃いのウィンド  
ブレーカーを着て  
PR活動を行ない  
ました！



# 広報活動を行なって



## ◇協働作業による効果

- 一医療機関ではできない、広域で多様な活動ができた
- 活動により拠点病院相談員同士の関係づくりができた
- 活動を楽しめた

## ◇広報活動による効果

- 相談支援センターの役割を知ってもらうことができた
- 顔の見える関係づくりができた  
→病院を身近に感じてもらうことができた
- 地域の状況、課題を理解することができた